

発言通告書の要旨(一般質問)

令和4年第3回定例会

質問日	質問順	議席/氏名	件名	要旨
9/7 (水)	1	3 瀧本哲史	1、三豊市の情報発信について	現在の情報発信の仕方や今後の課題について、お伺いする。
			2、教育関係課の組織編成について	来年、現在の校務支援システムの更新年になる。それに伴い、教育関係課の組織編成についてお伺いする。
	2	21 為広員史	1、18歳までの医療費無償化について	子育て世帯の負担を少しでも軽減させ、安心して子育てできる環境を整備できないかを聞く。
			2、河川の河床整地等災害防止対策について	台風や大雨による災害の防止対策について聞く。
			3、小中学校の通学路の整備について	通学路の整備について、現在の状況と、また、いつ頃までに完了する予定なのかを聞く。
	3	7 田中達也	1、脱炭素推進室の業務について	令和4年8月1日に新設された「脱炭素推進室」は、どのような業務を担うのか。市の環境対策を注視する市民が増えているため、これまで市が行ってきた対策及び、今後の進め方を問う。
			2、小中学校における1人1台端末の更新に対する考え方	「1人1台端末」と言われる学習ICT端末は、三豊市においても令和2年度に国のGIGAスクール構想実現のために実施された補助事業を活用して整備されている。これらの端末は数年後に更新時期を迎えるが、長寿命化を図れる性質のものではなく、確実に更新していくべきものである。財政的に大きな負担となることが予想されるが、どのような計画を持っているのか。
			3、若者定住促進・地域経済活性化事業補助金について	令和5年3月31日をもって事業の最終年度を迎える当事業について、継続を求める市民の声が多い。これまでの経緯や実績と、今後の方針について問う。

発言通告書の要旨(一般質問)

令和4年第3回定例会

質問日	質問順	議席/氏名	件名	要旨
9/7 (水)	4	16 込山文吉	1、SDGs未来都市三豊の取り組みについて	<p>未来都市に選定され、3年になる。SDGs達成へ向けた3年間の取り組みについて。</p> <p>(1) 未来都市三豊の取り組みを踏まえ、現場と課題を聞く。</p> <p>(2) 三豊SDGs推進パートナー制度を官民連携の基盤として活用できているのか。</p> <p>(3) 自治体SDGsを持続的に推進していくために条例化の考えを聞く。</p>
			2、市営住宅長寿命化の進捗について	<p>市営住宅長寿命化計画書では、今後の課題が挙げられている。</p> <p>(1) 三豊市市営住宅ストック総合活用計画の進捗を聞く。</p> <p>(2) 耐用年数を大きく超えた、更新すべき住宅への対応を聞く。</p> <p>(3) 建替事業実施に向け民間事業者との連携も検討としているが、進捗を聞く。</p>
			3、JR高瀬駅トイレの改修について	<p>「合併特例債の期限である令和7年度を見据えた上で、適切な時期に適切な判断を行いたい。」</p> <p>(1) JR四国との協議状況を聞く。</p> <p>(2) 合併特例債の使途に高瀬駅トイレは入っているのか。</p>
			4、道の駅ホテルの誘致について	<p>全国に道の駅ホテルが展開されている。</p> <p>道の駅「たからだの里さいた」への誘致の状況を聞く。</p>
9/8 (木)	6	20 詫間政司	1、これまでの環境政策から描く脱炭素社会の実現について	<p>本年度の施政方針の根幹政策に『三豊市独自の脱炭素社会の構築』がある。これまで三豊市は、バイオマスタウン構想を策定し、バイオマス活用推進計画を公表し、地球温暖化ガス削減のために施策を打ってきた。本年改めて「脱炭素推進室」を設置し、『三豊市独自の脱炭素社会の構築』に向け取り組み始めたところだ。これまでの環境政策の検証と、これまでの各計画と構想のそれぞれの策定根拠、並びに位置付け、役割、関係性について問う。また、「脱炭素先進地域」認定に向けての、三豊市らしい構想を問う。</p>
			2、脱炭素社会と教育及びコストからみた木造建築教育施設建設について	<p>脱炭素社会実現に向けた、今、三豊市ができる施策の提案をする。今、豊中地域統合小学校の計画が進められているが、脱炭素社会実現に向けた、教育及びコストの三つの視点からの木造建築教育施設建設の早期取り組みについて。</p> <p>(1) 公共施設建設において、脱炭素社会をいかに実現するのか。その手法の一つの提案は、無垢材、国産材、地域材、地元材の利活用に十分に配慮した、木造建築による教育施設建設の着手だ。</p> <p>(2) 教育の観点から、無垢材を代表する自然素材に囲まれた教育空間が、子どもたちに校舎への愛着を育みシビックプライド醸成の教育効果が期待できる。</p> <p>(3) コストからみた優位性は、無垢材による木造建築が、従来工法に比べサプライチェーンの影響が少なく、財政計画内に抑えることが可能である。</p> <p>早期の方針決定と取り組みの考えを問う。</p>
9/7 (水)	5	5 金子辰男	1、三豊市におけるデジタル田園都市国家構想について	<p>デジタル田園都市国家構想とはデジタルによって、地域の社会課題を解決しながら、地域の魅力を向上させようという取り組み。個性を生かしながら活性化していくことで、地域が成長していく。今、地方には「不便、不安、不利」という問題を抱えている。例えば、デジタル技術を医療に活用すれば、地域の健康を支えることが可能である。また学びやすい教育環境、教育現場を実現したり地域を支える産業の振興や、起業を促すことができる。事例を挙げると、自動運転の導入で買い物難民の解消が可能になったり、ドローンによる山間部や島しょ部に住む人たちの便宜を図る。また地域通貨であったりと、国は目指す方向性を示し、支援してくれる。三豊市は目指す理想像を描きながら、自主的、具体的に構想の実現に向けた取り組みを推進していく。デジタルの力で地方が元気になる。ハード、ソフトのデジタル基盤の整備。デジタル人材の育成。デジタルの力を活用した地方の社会課題解決。こうした取り組みを通じて、デジタル田園都市国家構想を展開していく。市のこれまでの取り組みと成果について問う。また、三豊市の個性を問う。目指す理想像「デジタル田園都市国家構想の可能性」を問う。</p>

発言通告書の要旨(一般質問)

令和4年第3回定例会

質問日	質問順	議席/氏名	件名	要旨
9/8 (木)	7	18 横山 強	1、前回6月の一般質問で地中障害物減額等と讃岐造船跡地等における市長・副市長の答弁について	(1) 地中障害物に対する6月の一般質問に対し、市長答弁に対し、広範囲に伺う。 (2) 6月の一般質問の答弁に対し、讃岐造船跡地購入契約書・水族館事業・グランドデザイン事業に関わった市長・副市長・当時の関係各部長に対し、広範囲に伺う。 (3) 讃岐造船跡地の再利用計画で市長・副市長・当時の課長(現部長)がグランドデザインを失敗した責任を広範囲に伺う。 (4) 6月の一般質問の答弁に対し、市長・副市長に詫間庁舎周辺整備構想の問題点等、広範囲に伺う。 (5) 今回も無駄な計画としている事業に対して市長・副市長・担当部長に対し、1,700万円の計画の無駄遣いを広範囲に伺う。 (6) 無計画により、讃岐造船跡地事業と詫間庁舎周辺計画に対し、市長・副市長・この事業に関わった当時の各課長・各部長・現担当部長に対し、市民の税金を無駄遣いした財源の返還等広範囲に伺う。 (7) 審議監の必要性を広範囲に伺う。 (8) 市長・副市長答弁に対し、教育長の見解を伺う。
	8	6 湯口 新	1、宿泊所、合宿所等の設置について	宝山湖ボールパーク構想や緑ヶ丘運動公園の整備などを市内の活性化につなげるためには、大会や合宿を誘致し、その参加者に市内に宿泊、滞在してもらって交流人口や関係人口を増やしていく政策が必要である。考えを伺う。
			2、主権者教育と少年議会について	各選挙における低投票率は万年の課題である。投票率を上げるには主権者教育が必要であると言われている。三豊市での取り組みを聞く。山形県の遊佐町(ゆざまち)では2003年から遊佐町少年議会事業に取り組んでおり、令和3年10月の衆議院選挙では、18歳投票率が63.53%と、県内トップクラスの結果になっていると聞く。三豊市でも取り組んではどうか、伺う。
			3、楽しむ防災対策について	南海トラフ地震はいつ起きてもおかしくない。被災時には公助が市民に届くまで3日間かかると言われており、その間は自助、共助に頼らざるを得ない。そのためには各家庭における避難準備が必要であるが、まだ十分だとは言えない。またコロナ禍において避難の仕方も変わってきている。そこでコロナ禍において広がったソロキャンプや家族でのキャンプ、RVパークやキャンピングカーでの車中泊等を利用した楽しむ防災対策を推進してはどうか伺う。
	9	11 高木 修	1、道路不法占有事案の解決について	現在高瀬町内に1件、市道不法占有事案があり、本来子どもたちの通学路であった道路が、樹木が生い茂り、人も車も全く通行出来ない状態になっている。 執行部も放置している訳ではなく、解決に向けて努力していただいているが、解決には至っていない。子どもたちは、並行している、交通量が多く歩道がない県道を歩行せざるを得ない状況である。課題解決に向けた今後の対応策を問う。
			2、防災無線「夜の放送」放送時刻繰り下げについて	「夜の全体放送」は午後7時ちょうどに放送開始されているが、「NHKニュース7」の放送時間と被ってしまう。 「NHKニュース7」の視聴者は多いとみられ、よく改善要望を耳にする。改善案としては、「夜の全体放送」の放送開始時刻を15分だけ繰り下げ、午後7時15分としたらどうか。以降、15分ずつ繰り下げたら大きな支障はないと思う。改善を提案する。
			3、高瀬川頭首工(とうしゅこう)の整備について	平成3年頃に建設された、ゴム引布製起伏堰(通称:風船ダム)が老朽化し、更新時期を迎えている。県の担当部署と協働して、水利施設等保全高度化事業のひとつとして推進すべき案件と思われる。 今後の取り組み課題に取り上げていただき、迅速な解決に向けた対応策を問う。

発言通告書の要旨(一般質問)

令和4年第3回定例会

質問日	質問順	議席/氏名	件名	要旨
9/8 (木)	10	1 西山彰人	1、人口減少の歯止めについて	人口減少をいかに食い止めるかは重要と考える。「子育てするなら三豊が一番」をもっと重視してはどうか。
			2、グランドデザインの本庁舎周辺の進捗について	本庁舎周辺整備はどうなっているのか。また、香川西校跡地の利活用をどうするか伺う。
			3、公共用地の貸与や売却について	統廃合となった学校跡地の貸与や売却の契約に、契約解除や買戻し条項が必要と思うがどうか。
	11	15 水本真奈美	1、使用済み紙おむつについて	(1) 公立保育所における使用済み紙おむつの持ち帰り制度を取りやめる考えを伺う。 (2) 一般廃棄物に占める使用済み紙おむつ(大人用・子供用)の割合が増加傾向にあり、全国的にはCO ₂ 削減や再生利用が課題となっている。三豊市の現状と課題を伺う。
			2、前立腺がんについて	(1) 近年、前立腺がんの罹患率は胃がんを抜いてトップで、前立腺がん罹患率は、過去10年で約3.4倍に増加している。前立腺がんは、定期的なPSA検査で早期発見、早期治療により、完治が可能ながんと言われ、定期的な検査の周知、啓発推進の考えを伺う。 (2) 前立腺がんや膀胱がんの治療後の方々の生活のために公共施設の男子トイレにサニタリーボックスを設置する考えを伺う。
			3、防災減災について	(1) マイタイムラインを取り入れた防災教育について (2) コロナ禍において避難所情報アプリの導入等でスムーズな避難行動がとれる環境整備 (3) 内閣府の「クラウド型被災者支援システム」の導入の考えを伺う。
9/9 (金)	12	13 丸戸研二	1、農業振興と生産資材等の高騰対策について	(1) 生産資材等の高騰をどう認識しているか。 (2) 国の対策だけで解決できるのか。 (3) 三豊市としての対策が待たれているのではないか。
			2、財田診療所の持続的診療体制の確保について	(1) 診療体制の変更 (2) 持続的診療体制の確保について
			3、デジタル化と子供たちの生活環境について	(1) 「三豊市こども・子育て支援センター」に関するアンケートに見る傾向 (2) 子供の発育と生活環境 もはやデジタルは否定できず後戻りもすべきではないが。 ・小学生 ・中学生 (3) GIGAスクールとデジタルへの目覚め (4) ゲームと子供の生活環境 ・ゲーム遊びに関する実態把握 ・ゲーム興じる時間が次第に増加していないか。 ・家庭の役目 (5) 学校の役目、行政の役目と具体的取り組み

発言通告書の要旨(一般質問)

令和4年第3回定例会

質問日	質問順	議席/氏名	件名	要旨
9/9 (金)	13	12 岩田秀樹	1、地場産小麦を学校給食・食育に利用を	小麦の地場産・オーガニック推進導入に補助金の支給制度の実現を求める。配送の農家負担軽減支援の取り組みの検討を進めてほしい。
			2、豊中地区小学校統廃合計画に対して、住民の意見・子どもの意見はどのように反映されているのか	学校統廃合実施後の計画の先例とする2地区の実態はどうか。文科省の制度もさまざま改訂されてきた。学校統廃合の手引きの変更点(適正規模や通学距離)、学校統廃合によって三豊市のコスト削減は実現するのか。
			3、校則の改訂はどうなっているのか	中学生の制服の統一がされようとしている、生徒の意見を取り入れている。制服の企画にあたっては、校則の改正を同時に行うべきではないか。
			4、新型コロナウイルス感染症が今後も教育現場でも拡大することが予測されるが、学習教育権確保対策はどうしていくのか	小学校児童で感染が発生した場合、学級閉鎖が行われることもある。この時、授業の遅れや宿題、連絡帳など通常と異なってくる。最も異なるのが授業であるが、この休み中の遅れをどのように取り返すのか。タブレットのみで行うのか。学習・教育権確保に向けて明確な指針を、行事の実施に向けての方針も示してほしい。
	14	2 三木秀樹	1、三豊市民の代表として、岸田政府の曖昧な政策判断に「具申すべき」と思うが、市長の考えは	岸田政府は、コロナ感染拡大防止対策には「最悪を考え実施」(昨年政権発足時)との公言にも関わらず、「無策」を続け、災害と言われたコロナ感染に「自己責任」で対処まで言い出す始末。市内だけで第7派の感染者は〇〇〇名と記録的だ。また、アベ元総理の死去に伴い、岸田政府は「国葬」を即決したが、本当に「国葬」でなければならないのか異議を持つ市民は多い。国会で平然と「虚偽答弁を繰り返し」(118回)、説明責任を放棄した「桜を見る会」等の私物化。まさに、国民主権を軽視・無視する施策の連続であった。三豊市も国の分断、差別化に大きな影響を受けて来た。市長の見解を聞く。
			2、経費削減と品質を確保するECI方式で、小学校の建設を目指すべきでないか	小学校の建設が「予定されて」いるが、諸物価の値上がり等も確実視される中、「合併特例債の利用期限(R7年度末)までに完成を急ぐあまり、これまでの「建設方式」で行うと、実施設計に基づく施工業者入札時に、「入札ゼロ」「入札不調」の可能性が予想される。主催側の代理となるCMの課題もあるが、基本設計を選び、施工業者を選んで、3者(CM, 設計、施工)で協議しての「実施設計、建設」とする2段階方式(ECI方式)で、物価対策、経費削減等が見込まれることを取り組んではどうか。またデザインビルド方式(設計・施工一括発注方式)もあるが、品質が保証されるか等の課題もあると聞く。当局の見解を聞きたい。
			3、「三豊市のネウボラ」(県内初)を目指す子育て支援センター機能等検討委員会の見解の進捗状況から、実施に向けての課題を聞く	12名の専門医(臨床心理士等)からなる「同委員会」は、〇回の検討を重ね、「子育て支援センター」「児童発達支援センター」「共用スペース」、それぞれの用途・ゾーンごとの用途根拠・広さの目安を提示し、施設規模(2階建て、駐車場含み3,500㎡)、定員数まで検討されている。市長は「教育、子育てについては予算の上限は無し」(3月議会答弁)と本腰だ。率直に聞くが、どこに県内初の拠点(センター)を創ろうとしているのか。かつ充実したセンターの最重要課題、専門医含めた職員配置の計画・予算構想は、具体的に進んでいるのか。